

説得力とは？

張儀の説得法

双方の環境の理解

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com

件名: 张仪 (史记) 说, 战胜的问提 題

日付: 2023/03/01 6:05:45

宛先: masaki_yamauchi@hotmail.com

史記 66

张仪 (史记) 说, 战胜的问提

张仪向東遊說齊湣王說：“天下強大的國家沒有超過齊國的，大臣及其父兄興旺發達、富足安樂。然而，替大王出謀劃策的人，都為了暫時的歡樂，不顧國家長遠的利益。

主張合縱的人遊說大王，必定會說：‘齊國西面有強大的趙國，南面有韓國和魏國，齊國是背靠大海的國家，土地廣闊，人口眾多，軍隊強大，士兵勇敢，即使有一百個秦國，對齊國也將無可奈何。’

大王認為他們的說法很高明，卻沒能考慮到實際的情況。

主張合縱的人，結黨營私，排斥異己，沒有不認為合縱是可行的。

我聽說，齊國和魯國打了三次仗，而魯國戰勝了三次，國家卻因此隨後就滅亡了，即使有戰勝的名聲，卻遭到國家滅亡的現實。

這是為什麼呢？齊國強大而魯國弱小啊。

現在，秦國與齊國比較，就如同齊國和魯國一樣。

秦國和趙國在漳河邊上交戰，兩次交戰兩次打敗了秦國；

在番吾城下交戰，

兩次交戰又兩次打敗了秦國。四次戰役之後，

趙國的士兵陣亡了幾十萬，

才僅僅保住了邯鄲。即使趙國有戰勝的名聲，國家卻殘破不堪了。

這是為什麼呢？秦國強大而趙國弱小啊。 ”

如今秦、楚兩國嫁女娶婦，結成兄弟盟國。

韓國獻出宜陽，魏國獻出河外，

趙國在滎池朝拜秦王，割讓河間來奉事秦國。

假如大王不臣事秦國，

秦國就會驅使韓國、魏國進攻齊國的南方，
趙國的軍隊全部出動，渡過清河，

直指博關、臨菑，即墨就不再為大王所擁有了。國家一旦被進攻，
即使是想要臣事秦國，也不可能了，因此希望大王仔細地考慮它。”
齊王說：“齊國偏僻落後，僻處東海邊上，
不曾聽到過國家長遠利益的道理。”
就答應了張儀的建議。

天下の強国、齊をしのぐ者はありません。
大臣長老、おおくさかんに富み楽しんでおります。
しかしながら大王の方策をたてまする者たち、
みな一時の説でありまして、百代の利益をかえりみませぬ。

合従論者が大王さまにすすめます際に
必ず申すのは、『齊の西には強大な趙があり、
南には韓と梁（魏）がある。齊は海への国である。
土地は広く民もおおく、兵はつよく士は勇ましい。
たとえ秦が百あっても、齊をどうすることもできまい』
ということです。

大王にはかれらの説をすぐれたものと
お考えなさいましょうが、その内実を見ぬいてはおられませぬ。
だいたい合従論者は党派をくんでおりまして、
合従がよいと言わないものはないのですが、
承りますれば、齊と魯は三たび戦って
魯が三たび勝ちを得ました、けれども魯の国は危うくなって、
滅亡がそのあとに來ました由。戦勝の名を得ましたものの、
実は亡国となったのは、何ごとでございましょう。
齊は大きく魯は小さいからです。

ただいまの趙と秦の関係は、ちょうど齊と魯の関係と同じ
であります。秦と趙は河の川岸で戦い、
二度の合戦に二度とも趙が勝ちました。
番吾の城下の合戦でも、二度ともまた秦に勝ちました。

四度の合戦ののち、趙の士卒の逃亡者は数十万、
邯鄲の都はかるうじてのこり、
戦勝の名は得ましたものの、国は破滅に近づいております。
何故かと言えば、秦は強く趙が弱いからです。

秦と楚は、むすめをやり嫁をめぐって、兄弟の国となりました。
韓は宜陽の城を献げ、梁は黄河の南の地域をさしだし、
趙は滏池に入朝して、河間の地を割譲し秦に服従しました。

大王さまが秦にしたがわれませぬときは、
秦は韓と梁を駆りたてて齊の南を攻めさせ、
趙は全力をもって清河をわたり、博関をめざしましょう。
さすれば臨淄の都も、即墨も、王さまの手をはなれましょう。

ひとたびお国が攻められてからは、
秦に従おうとなさいましても、それはできますまい。
ですから大王さまのご熟慮を願わしゅう存じます」。
齊王は「わが国は辺鄙で、東海の岸にはなれ住んでおるゆえ、
社稷の長久の計をかつて聞かなかつた」と言い、
やがて張儀に承諾をあたえた。